

時論

孤城落日の土木費

繰延削減居士



◆歐洲戰亂の前後に渉る世界の外交界を回顧する時、予は伊太利參戰當時のソニノの外交と、プレス、リトウス、ク條約當時のトロツキーの外交とを以て、眞に卓越せる外交の双壁なりと推賞するを憚らぬ。而も此の二人の外に偉大なる外交手腕を持ちながら、時利あらずして流星の如く闇の中に其の名を没したる彼のブロックドルフ、ランツァウを想ふ時、予は此人の不運に一掬同情の涙なきを得ない。

◆戦前より予は獨逸の外交界に隠れたる逸材ブロックドルフ、ランツァウある事を聞いて居た。彼はカイゼルと意見

が合はず、有爲の身を以て空しく北歐の小國公使に埋もれて居たが、獨逸が戦ひに敗れてベルサイユで所謂ゲワルトフリーデ條約を結ばんとした時、撰ばれて敵國に使したるものは則ち彼れブロックドルフ、ランツァウであつた。

◆彼れが敗戦の獨逸を代表してベルサイユに乗り込み、勝に傲る雲霞の如き聯合側の使節を向ふに廻はし、水も漏らさぬ策戦を案出して一芝居打とうと試みた時、予は思はず彼れの爲めに手に汗を握つた。恐くは彼れは四面楚歌の逆境に立つて、沈着に冷靜に大膽に執拗に、一步一步困難に

勝ち反對を和らけ、倦まず迫らず屈せず搦めまず、次第次第に自己の求むる環境と情勢とを作りあけて、傲るウイル

ソンやロイドジョージに一泡ふかせるに相違ないと豫期して居た。憐れむべし、戦ひに勝つて尙ほ且つ一個のランツァウを恐れたる人々が、審つてたかつて質問も折衝も凡て許さず、時間を定めて諾否を云へと押さへつけた爲めに、流石の彼れも施すべき策は持ちながら、一個の使丁の役目を勤めたのみで、快々として空しく伯林に歸つた。

◆予は今も思ふ。獨逸の盛時に彼れをして外交界に充分の腕を揮ひ得る位置に立たしめたならば、彼れはビスマーク以上の働きを爲したかも知れぬ。少くとも獨逸が一敗地にまみれる前に、彼れに與ふるに外相の位置を以てしたならば、少くともウエヒテルやチンメルマンなどより遙に優れた外交手腕を發揮して、危い獨逸を窮地より救ひ出したに相違はない。思へば人の運不運は分らぬものである。

◆戦勝の勢に乗ずれば、弱卒も尙ほ勇士の如く見えるが、敗兵をまとめるのは兵家も苦しむところであると云ふ。市井の勝負事でも旭日昇天の潮流に乗ずれば、無理しても勝つが、下り坂になれば、する事なす事皆外れるのを常とする

と云ふ。人の一生に於ても、泣き面に蜂の逆境に善處するのが一番大切で而も困難であると思ふ。

◆土木事業は今や中央でも地方でも四面楚歌の裡に進退兩難に陥つた形である。かう下り坂になると順境時代の多少の無理が形を變へ力を倍してヒシヒシと報ひて来る。今日では姑息なる防勢を取つて朝に夕に一城づつを奪はれるやうなやり方では結局座して自滅を待つの外はあるまい。此の際全く陣形を建て直し、從來の誤解をとぎ世論の反感を和らけ顔を洗つて出直す必要はないであらうか。徒らに舊套を墨守して孤城に立て籠つて居るのみでは、假令、眞田幸村の智ありとするも、遂には弓折れ矢盡きて落城する時が来るに違ひないと思ふ。ブロックドルフ、ランツァウの智を以てしても倒れんとするの大廈を支へ、狂瀾を廻らすの力はなかつた。倒れんとする家は勝手に倒れしめよ。予は更らに新しい丈夫な鐵筋コンクリートの家を建てる事の賢にして且つ容易なるを思ふ。

家貧しくして良妻を思ひ、國亂れて忠臣を思ふ。俊秀の士林の如しと云はれた土木界に遂に一人も頽勢を盛り返す智恵ある人物は居ないであらうか。